

来入児保護者説明会：学校長の話

こんにちは。本日はお忙しいところお子さんの入学についての保護者説明会にご来校いただき、ありがとうございます。お子さんたちはきっと今日の1日入学を楽しみにしていたと思いますが、ちょうどインフルエンザの流行期と重なってしまい、学校に来ていただくことは避けました。保護者の皆様には、こんな大変な時期に学校に足を運んでいただき、本当に申し訳なく思います。寒い中ですが、しばらくお話をしたいと思います。

学校長の筒井年恵と申します。南小でお世話になって3年になります。よろしくお願ひします。私は主婦であり、2人の子どもの母親です。私自身、上の子の入学の際には不安や心配事が多くありました。きっとわからないことやご不安があると思います。南小のお子さんをもつご近所の方に聞いていただいたり、学校に問い合わせさせていただいたりして入学の準備をしていただけるとありがたいです。お子さんの小学校入学はお子さんの人生にとって、とっても大きな節目であると思います。子どもさんも大きな期待を抱いていると思いますが、その気持ちを大事に受け止めて、親としての準備をしっかりとしてあげてください。

校長の願ひは、『明日も来たい学校づくり』です。心の面でも、身体の間でも、安心安全な学校でありたいと思っています。子ども一人一人に確かな居場所のある学校を目指していきます。

お話をさせていただきたいことはたくさんありますが、今日は大きく3つのお話をしたいと思います。

一つ目は、「親としての責任」です。

私の失敗談からお話しします。上の子が中学校1年生の時でした。陸上部に入部して初めての大会の朝、私は前日の仕事の疲れからか大寝坊をしてしまいました。バナナを一本食べさせただけで、大会に行かせてしまいました。その後、必死で弁当を作り陸上競技場に届けましたが、この日1500Mを走らなければならなかった娘にとって大変きつい一日となってしまいました。早く起きて、せめて温かいご飯と味噌汁を食べさせてあげたかったと後悔しました。朝飯を食べさせて、学校に送り出してあげるこ、これは親の責任であると思います。いつも子どものために何が大切かを考え、行動できる親でありたいなあとと思います。私たちは、知らず知らずの内に自分の親から授けてもらった躰というものがあります。それは、洗顔、着替え、排便、歯磨き、箸の持ち方などです。返事や挨拶も大事ですね。入学を前にして、こういうことがまだ不十分なお子さんが見受けられます。私たちが大きくなってくる中で、自分の親からしつけてもらったことは、是非ともしっかりと受け継いでいきたいと思っています。お子さんの欠席の連絡も親の責任として必ず行ってください。先日の児童会長を選ぶ児童会選挙の立ち会い演説会で、代表の子どもが、「学校や家庭ばかりではなく、地域の人にも挨拶をしていきたい」と言っていました。とても大事なことであると思いました。南小の29年度の学校運営の重点に「声に出して挨拶をしていこう」という

ことを掲げていきたいと思っています。声に出して挨拶できる子どもたちを育てていきましょう。

二つ目は、「知・徳・体の調和のとれた子どもさんを育てていきましょう」ということです。

やさしく・かしこく・たくましい子に育てて欲しいです。たくましさのもとには身体です。それぞれのお家のご事情はあるかと思えますし、バス通学のお子さんもおりますのでその限りではありませんが、『歩いて登校すること』をおすすめしたいと思います。最近では子どもの体力不足が大きな教育問題になっています。一日片道2kmを一年210日、それを6年間続けたとしましょう。一年に840km、6年間では5040km、一日一日の積み重ねは、体育の時間の運動よりも子どもたちの身体を作っていきます。また、何事にもくじけない心を育てていくことにもつながっていきます。

三つ目は、「教室はそれぞれ違った苦手や得意を持つ子どもたちの集団であることを知ってください」ということです。

私は折り紙を折りました。先生から言われるように折ったのですが、こちらの犬を折りました。でも先生が折らせたかった犬はこちらです。全く逆の犬を折ってしまいました。どうしてこんなことが起こったと思いますか？それは、私が耳で聞いた情報だけで勉強するのは苦手だからです。もし、私が折っている途中で、



目からの情報を入れてもらえていけば、間違いのない犬を折ることができたと思います。私はどうも耳だけの情報では理解しにくいことが多いようです。PCの画面を見たり、説明文を読んだりして、目で見ながらやると



理解しやすいです。南小の子どもたちも同じように、耳からの情報だけで理解が進むお子さんもいますが、目からの情報を入れてあげることでさらに理解が進むお子さんもいます。子どもたちの理解の仕方にも違いがあります。このように、いろいろな苦手や得意をもつ子どもたちの集まっているところが教室です。そういうお互いの違いを理解しながら、時には認め合い・時には批評し合いながら成長していけたらいいなあと思います。私たち大人が子どものできないことに腹を立ててかっとするのはなく、できることを褒めて挙げたり、ときにはできないことでも理解しやすい言葉で言い直してあげたり、手本を示したりしてあげることで、子どもはのびのびと成長していくことができるのではないかと思います。

最後です。学校は保護者の皆様とともにお子さんの健やかな成長を担っていくところであり、ともに知恵を出し合い考えていくところです。入学前も、入学後ご心配なことはその都度ご連絡いただくとありがたいです。お子さんのご入学を心よりお待ちしております。

以上で、お話を終わります。ありがとうございました。